

中国における留守児童問題に関する一考察

—祖父母養育への支援を中心に—

CHEN Zhixin

本論文は中国の留守児童問題に注目し、彼らを取り巻くすべての環境のなかでも、とくに留守児童たちを養育している祖父母に焦点を当て、留守児童たちによりよい養育環境を提供するために、祖父母養育を一つの社会資源とし、支援されるべきであると論じている。

1980年代から、中国の「改革開放」により、農業機械化プロセスが加速され、都市化が進められる過程で土地資源が吸収されたことにより農村部の必要労働者が減少してきた。そのため、中部、西部、西北の農村部の余剰な労働者が、よりよい賃金の高い仕事に従事し、生活の質を改善するために、大量に故郷を離れて東南部の沿海地域に出稼ぎに出た。彼らは出稼ぎを選んだが、中国特有の二元構造戸籍制度の制限があり、加えて出稼ぎ労働者の労働条件により、自分たちの子どもを連れて一緒に都市部で生活することは難しい。したがって、子どもを農村部に残さざるを得なくなる。こういう子どもたちは「留守児童」という。

留守児童たちにはどのような問題に囲まれているかについて、多くの先行研究からまとめてみると、①身の安全問題、②心理的問題、③教育上の問題、④祖父母による養育上の問題という四つの課題が指摘されている。それらの研究結果から、「留守」ということは「児童権利に関する条約」が定めた子どもの四つの基本的権利(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)を侵害していることが明らかである。しかし、祖父母養育は課題が抱えているものの、先行研究から、祖父母が子育てに関与することは子どもの幸福感、安全感に寄与すること等が示唆されている。

中国国家统计局、UNICEF 及び UNFPA の調査の結果、親が共に出稼ぎに行き、祖父母のもとで養育される留守児童数は 4,051 万人のうち 26.3%を占めている。その数は決して少ないとは言えない。また同調査が示しているような 10.3%の留守児童がひとりで、あるいは子ども同士だけで暮らしている深刻な状況に落ちないように、国レベルの課題である経済的格差の解消及び戸籍制度の改革がまだできていない現状のもとでは、実際に留守児童たちの日常生活を

見守っている祖父母たちへの支援により、留守児童の養育環境が改善できるはずと考えるが、政府からの支援、民間団体による支援及び筆者がインタビュー調査をした NPO の現状を考察した結果、祖父母養育は支援からこぼれ落ちる傾向にある。

しかし、隣国の日本やオセアニアのオーストラリアでは、祖父母による養育(親族里親)が重要視され、祖父母養育の利点を認めたくえで、それに対する支援体制が用意されている。中国において、祖父母養育を留守児童問題解消の一つの資源とみなし、日本やオーストラリアのような支援体制を援用し、祖父母養育が活用できる環境を作り出すことが必要ではないだろうか。

以上の点を踏まえて、格差の解消、戸籍制度の改革などは今後政府の課題として解決し続けるべきだが、留守児童に関する直接的な養育関係を維持している祖父母たちへの支援も視野にいれるべきだと考える。つまり、留守児童への支援体制は留守児童問題の起因から、留守児童を養育している祖父母への支援まで、マクロレベルから、メゾレベル、ミクロレベルに至るまで、さまざまな段階における留守児童に対する支援体制の構築が必要だと考える。

農村部出身の出稼ぎ労働者たちは、家族により生活をさせるために、故郷から離れ、子どもとも離れて、出稼ぎを選んだ。しかし、「出稼ぎ」により子どもとの養育関係が崩れ、子どもたちに悪い影響を与え、様々な問題が生じた。稼いだお金はよい生活をもたらせず、自分の子どもを格差の底辺に押し付ける、というジレンマは多くの農村家庭が陥っている。

このような状況に対して、中国政府が打ち出している寄宿学校などの政策では不十分である。やはり児童の権利条約の理念に従って、子どもの育つ家庭環境を改善し、子どもがどのような環境に生まれようともそれによって不利な状況におかれることのない社会を目指すことが、今後の中国政府の社会福祉政策には求められる。